

2018-6-22 更新



USRA(米国漕艇協会)の安全ポスター(230mmx690mm, ウェブサイトwww.usrowing.orgにPDF版あり)の和訳

下線(テキスト本体でなく下線自体), 斜・細字はOzawa Rowingによる, 日本のロウイングのための加筆, 注釈

漕手&コックス

- ・遭難合図を知っているか? : 頭の上で腕かシャツを振る, ホイッスルかホーンを鳴らす, オール1本を垂直に立てる。(エイト)
遭難合図をよく知っておこう。ただし日本では目撃者がその意図を理解してくれるかどうか怪しい。逆に遭難していないときに不用意にこのような動作をし遭難と誤認されないように注意しなければならない。
- ・浸水または転覆した場合も艇から離れず, 艇を浮きとして使う
- ・決して艇無しで岸に泳ごうとしないこと。
- ・オールを浮きとして使わない。
- ・伴走艇が付かない時は常にバディで漕ごう。
バディの意識は, 乗艇密度の少ない状況下では, 日本でももっと高めておくべき。
- ・艇の発着に関する協定を知っておこう。

ボートに乗せるもの

- ・パウボールはしっかり固定されているか?
- ・すぐに脱げるように, かかと紐を点検しよう
- ・パウとスターンのライトの電池を点検しよう。
- ・音響装備; ホーンかホイッスルを搭載しよう。
日本では習慣付けられていないところが多い。

クラブールの確認

- ・常にログ(乗艇ノート)をつけてから乗艇, 上がって記録をしているか?
参考: 掲示板に記入・掲示という方法も使える。
- ・水域固有の, クラブ固有のルールを熟知しよう。

水域を知ろう

- ・全ての交通ルールを知っておこう。
- ・流れ, 潮汐に注意しよう。
- ・水面下に隠れた危険をしっかりと把握し, 位置を覚えておこう。

モーターボート

- ・漕手全員分のPFDを搭載しているか?
- ・ペイラー(水を掻き出すもの), パドル, 救急箱, 消火器, アンカー, 予備ロープ, 発炎筒, スペースブランケットを搭載しよう。

スペースブランケット: エマージェンシー・ブランケット, アルミ蒸着した銀・金色のポリエチレンシート。救急, 安全用品として日本でも市販されている。

- ・航行灯の点灯を確認しよう。
- ・通信と救助要請のために, 携帯電話か無線機を搭載しよう。

コーチ

- ・規則と緊急時の手順を, 普段からクルーに繰返し話しているか?
- ・全漕手がスイムテストに合格しておこう。
- ・目立つ場所にログブック(乗艇ノート)を置こう。
日本では, トレーニング記録と乗艇記録が複合されているケースが多いかもしれない。今, どの艇が出艇し何時帰着する予定か, 帰着し帰ったかが即座に確認できるノートあるいは掲示板のシステムを, 確実にする必要がある。
- ・緊急時の行動計画を皆で理解しておこう。
- ・全ての装備が完全・安全に機能するようにしておこう。
- ・全ての船舶の安全に関する全ての連邦ルール, 地域ルールを知っておこう。
- ・危険やトリッキーな流れを把握するために, コックスおよびアシスタントコーチと一緒に, 水域および環境を点検しておこう。

気象をよく観察

- ・落雷や雷雨に注意をしておこう。
- ・増水の危険や強風に注意をしておこう
- ・濃霧ではライトをつけても乗艇しないこと。

暑いときの注意

- ・大量に発汗し, 水分補給が追いつかなければ, 脱水症状が起きる。
- ・練習の前・中・後, そして日なたでの限界時間内に, 水分を補給しよう。
- ・気温, 日射, 湿度に応じて活動レベルをコントロールしよう。
- ・日射を避けるため, 明るい色の衣類を着るようにし, 外に出る前に日焼け止めを塗ろう。

寒冷期の注意

- ・気温が5°C(40°F)以下そして/または水温が10°C(50°F)以下の場合は, すべての艇の90m(100ヤード)以内に伴走艇(モーター)が付くようにしよう。
水温・(気温)や艇種, 伴走艇などで乗艇条件を明確に規定することが必要と思われる。
- ・そのような条件の時は, 低体温症が急速に進行する恐れが大きい。

より詳しい情報は…

- ・ロウイングの安全と規則についてより詳しく知りたい場合は, www.usrowing.orgを参照しよう。

要約キーワード(日本の安全対策との比較の中での要点): 遭難合図, バディシステム, 音響信号, ログブック(乗艇ノート), 水温による乗艇条件の設定